

平成23年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 文化情報

フリガナ キ ゾウミン
氏名 季 増民

研究期間 平成23年度

研究課題名 高度経済成長期における長江デルタの都市拡大の特徴—日本の大都市圏との比較—

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	季 増民		
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究では無錫市と昆山市について横並びでフラットな関係で比較検討し、都市拡大パターンの共通性と異質性を明らかにする。具体的に、まず無錫市と昆山市全域について横断的な比較を通して地域的・経年的特色について整理し、ニューシティ型と開発区型のそれぞれの特徴を一層際立たせる。住宅中心の開発行為と工業主導の開発がどのように地面に投影されているかを4年次、4象限に区分して定量的に分析する。次に全市域から郊外地域を抽出し、その拡大過程を明らかにしたうえで、そこにおける土地利用の変化を水域、農林用地、都市的用地の構成比から定量的に解明する。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

6月～7月 文献や統計資料収集、アンケート調査票の準備
8月または9月 国内外の事例地域への現地踏査、アンケート、聞き取り調査を実施し、拡大の実態とメカニズムを明らかにする。
10月～翌年2月 資料やデータの解析、補足調査、結果の取りまとめ、論文として加工する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

異質性を生み出す背景については、統計資料を用いて分析するとともに、両市に固有する背景も探る。さらに両者に共通して見られる特色、両者に通底する社会制度や経済発展の背景を抽出する。統計資料の不足や信ぴょう性の問題点を克服し、且つ同一基準に基づく客観的な比較を行うため、衛星画像による分析に重点を置きつつ、背景分析に際しては統計資料や聞き取り調査の結果も参考するという方法をとる。

筆者の第一段階の研究では、ニューシティー型と開発区型、この2つの代表的な類型について詳細な考察を行い、それぞれの地域再編特性とその背景を明らかにした。しかし、第一段階の研究成果では、事例地域に関する地誌学的な考察に終始し、それぞれの地域個性と結び付けてプロセスやメカニズムを深く掘り下げて検討した。

第二段階の研究としては第一段階で明らかになった実態を十分に踏まえ、個別事例の分析から長江デルタへと研究範囲を広げ、ニューシティー型と開発区型による都市の拡大パターンの特徴と一般性の解明を行った。

今後の課題として、まず郊外地域における異質性や混交性を生み出す法制度や社会制度といった構造上の原因を明らかにすることである。

また、無錫市や昆山市との類似性の高い事例地域（例えば江蘇省の蘇州市や南通市、浙江省の嘉興市や平湖市）を増やして分析を進める。横断的な比較検討を重ねることを通じて長江デルタはもちろん中国のその他の都市圏に通用する、郊外地域の共通性と相違性を抽出し、そのモデル化を図る。さらに地域単位でいえば、地方中心都市の無錫市、中小都市の昆山市について考察してきたが、農村部のまちである鎮区を取り巻く周辺地域にも調査範囲を広げ考察する必要がある。都市規模と階層による異質性と共通性を解明することにより、地理的立場に立つ都市化のプロセスの追究を完結する。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①経済成長期	②都市拡大	③長江デルタ	④中国
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

季増民：Characteristics of Urban Expansion in the Yangtze River Delta in a High Economics Growth Period (Improved Version) (英語)、UGI 2011 Regional Geographic conference、2011年11月

研究成果を「長江デルタにおける都市拡大の比較研究—無錫市と昆山市を事例に」と題する論文(16頁)としてまとめ、椋山女学園大学研究論集43号に掲載されることになった。今後の第三段階では、市民社会の成熟化などを含めて郊外地域の望ましい将来像とその実現に向けての提言や方策を提示する計画である。また、長江デルタ地域において農村の都市化と都市の郊外化が同時進行する現象が存在するか否かを理論的に検証し、その景観的指標と社会・経済的指標を定量的に確認する。さらにこの研究シリーズの完結編として、第三空間論(都市と農村のカップリング地域)という理論構築を目指す考えである。また、高度経済成長期における日本の大都市圏との比較を行い、共通点や異質性を抽出する。